

幼児施設の計画視点

小川 信子

☆はじめに

幼児のための施設について、関心を持つようになったのは、およそ三十余年前のことになります。大学の卒業論文研究のために、その当時の幼稚園と保育所を数ヶ所、見学をして調査をおこないました。その中の一施設がお茶の水女子大学の附属幼稚園でした。多分その時の園長先生は及川先生でいらしたと記憶しておりますが、その折の先生のお話しを含めて最も印象深く、そして私が今日まで幼児施設を研究し計画する時の原点になっています。

さらに、幼児の教育について目を開かせて下さった先

生の一人として周郷博先生の教えも忘れることができません。"幼児を教育することは、大人の基準で枠をきめずに子どもの可能性を信じて見守ることが大切である"というようなことをおっしゃいました。そして従来までの一斉に行動をさせる保育方法とは違う子どもの個性を伸ばせるような教育をしなければならないということでした。

☆生活と環境のかかわり

その時のお茶の水女子大学附属幼稚園の保育方法は、子どもたちの動きが他の幼稚園と異っていました。それは、保育室の中できわめて自由に子どもたちが行動していたことであり、その行為の内容は多様でした。或る子どもたちは、積木遊びをして共同作業をしているかと思えば、ある子どもは絵を描いていたり、又はごっこ遊びに夢中になっていました。保育室が色々な性格を持っているかに見えたのでした。それ以来、子どものための施設は、小学校の教室のように机といすを並べたものではなく、十分な保育ができないと思うようになりました。

施設計画をおこなう時に、最初にその幼稚園の教育内

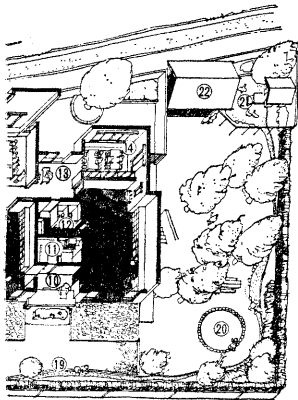
容を理解することです。さらに、その内容をどのような方法で運営しているのかを検討します。その上で注意しなければならぬのは、子どもと先生とのかかわり合いを良く知ることでしょう。環境を計画することは、単に物理的な建物を作るのではなく、その中で行われる生活にふさわしい条件作りをすることでしょう。そのためには次の点を検討することからはじめます。

(1) 子どもの個人的な行為を疎外しないように配慮をする。

(2) 小グループおよび大グループなどグループでおこなう行為の場を確保する。

(3) 保育機能に適した空間を用意する。たとえば、絵を描くために十分な道具を設置した場所、遊戯ができる広さのある空間など、静かに本が読める図書室など、を別々に考える。

(4) 従来までのように保育室の中で多様な行為をおこなっていた状態を再検討して(3)の機能的な考え方をした時の空間の計画を考



える。

(5) 各々機能的な空間を計画した上で、それらを融合的につなげて子どもたちの出合いの場所をつくる。

(6) 衛生関係の空間と保育空間との関連をはかる。

(7) 保育室と外部空間との関係を考えて、行動が拡がるようにする。

(8) 上下足の履きかえ場所を玄関にまとめる。直接、保育室やテラスから入れない。保育室に直接入るような登園方法の場合には、保育室に出入口のためのコーナ－を計画する。

☆T施設の空間計画例

(設計小川信子+小川建築工房) 一九七七年四月開園(定員障

害児も含んで九〇余名)

。生活行為別の空間計画

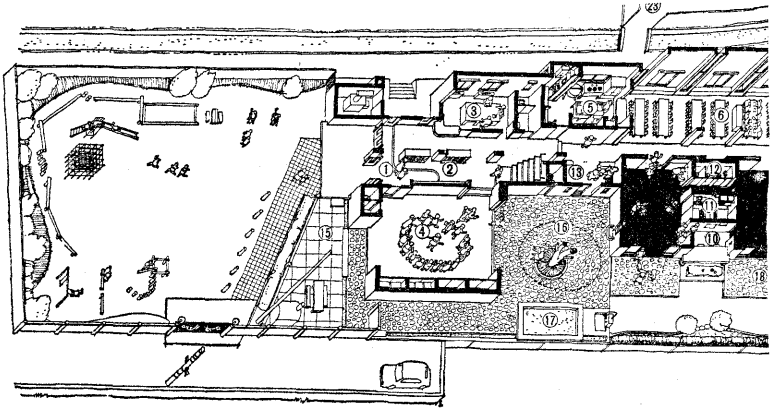
年令別の保育室(七、八、九)

が園でのひろがりのある生活の拠点になり、この部屋を中心に、食事室(一)、読書室(一四)、遊戯室(四)、たまり場(二三)などがあり

ます。保育室と遊戯室は机やいすは入れず、床を十分に生かして、保育室は静かな、遊戯室は集団的な、また活発な行為をおこなう場所となります。食事室（制作室を兼ねる）と図書室は机といすを入れて、机を使った行為ができるように計画をしました。絵画、共同制作などは、食事室で開放された空間として使います。静かで落ち着いた雰囲気が必要な時は読書室を利用します。

。空間の相互交流

保育室は相互につながり、また各保育室は食堂とつながり、空間に独立性と連続性をもたせ、子どもの心に緊張と開放をあたえ、秩序と自由とのバランスある社会生活の中で、より正しい個性の成長を期待しました。また遊戯室と中庭（一六）、保育室とテラス（一八）および前



内部の行動を規制しないよう十分な配慮が必要です。

庭、読書室と裏庭など、それぞれの内部空間は、それにふさわしい外部空間とつながります。

。地域社会への開放

読書室を、児童図書室として地域へ開放できるように、直接入れの入口（二三）を取り、同時に鳥小屋（二二）や裏庭も開放します。やがて卒園した子どもたちが図書室にあつまって、コミュニティ活動の中心になれるようにとの願いも込めて計画をしました。

環境は室内・外を含めて計画をしてはじめて整備されたものになります。幼児施設の計画は、その施設でおこなわれる保育がよりよくおこなわれるための物理的な空間作りでもあります。空間が、

（日本女子大学）